

校友会報

第 10 号

昭和 41 年 12 月 26 日

日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定

電話 郡山 ②1563 番

発行人 柳沼福夫

編集人 篠崎道夫

「よどみなきわが学園像」

日本大学教授 新 亮



見たり聞いたりで学園開発の様子はお承知のことでしょうが、校舎、実験施設、図書館、体育館其の他学園環境などの整備は急速に進められ、昔を偲ぶものは全くなく面目一新の現況であります。

勿論在籍学生数も 3,000 を数え、教授陣容も強化され、名実共に大学としての姿ができあがつたといわれましよう。

卒業生の皆様は寺小屋式の耐乏教育を受けられながらも立派に社会的活動をなされ、社会的好評の中に基盤を固められてまいられ、後に続く者を信じつゝ大努力を傾注されたことは、身をもつて知らされており慶祝の極みであります。その裏づけとして年々の社会的受入態勢も極めて良好なことは、このことを如実に物語っております。

大学側としましても、大学は大衆知識人を生み出すために二面にわたる教育を行つております、その一面は学門上の知識の教授であり、他の一面は人間が人間として究極的に求められている人間形成のための教育を行つております。

この現れの一つとして本年 4 月から学生相談室を開設し、相談室には常任指導委員 4 名が常勤し、それぞれ厚生、体育、文化および行事等の分野を担当し、学生のために親しみ易い、楽しい学園生活に寄与すべく活動を続けるとともに、学生の進路啓発指導の一切に適切な相談を致し多面にわたり成果を挙げております。

学生相談室の背景とする要因は次のようなものであります。

① 学生課に持込む学生や父兄および一般関係者の相談件数が急激に増加し、学生課で消化しきれなくなつた。

② 相談内容によつては心理学や精神医学の専門知識が必要とする場合もあり、この傾向が非常に強くなつてきた。

③ 大学の多人数教育化にともなつて組織全体が巨大化すると同時に下部機関は複雑に細分専門化されてきて、学生の中には自分の抱えた問題をどの部局に相談すべきか迷う者もでゝきているので、いわば交通整理の役をなすためにも指導センターが必要になつてきた。

これ等に関して相談室の相談内容を分類しますと、ざつと次のようなもので、その件数も非常に多い現状であります。

① 学業、② 課外活動、③ 転科、転部、④ 留学、⑤ 就職、⑥ 人生、思想、⑦ 家庭、住居、⑧ 心理障害、⑨ 経済、⑩ 健康、⑪ 事故、⑫ 其他となつております。

今や大学は学者の養成所としての「象牙の塔」としての時代は去つて、国家全体の基盤となる大衆の文化水準の向上に貢献する大衆知識人の養成に指向されつゝありますので、我々もおよばずながらこの教育理念にもとづいて懸命の努力を払つておりますが、校友の皆様からみれば、必ずしもご期待に添えないきらいもあると存じますが、社会人としての御指導と育成におしみない御力添を請い願う次第であります。

校友の皆様には、他人と協力し他人と正しい関係にはいることによつて眞の自己を実現し、法の秩序を守り、よい社会生活を営むことができるような実践力をもつた、いわば社会的知性を身につけておられることですから、これをもとに、社会開発に寄与されますことを念願致し、あわせて、日本大学の限りない発展に知恵と勇気をふりしぶつてほしいのです。

(筆者は工学部土木工学科教授、常任学生指導委員)

日本大学 工学部 学生クラブ振興会について

日本大学教授 那須伝夫



今秋10月25日に郡山学園開設20周年記念式典が盛大におこなわれましたことは、まだ記憶に新しいところであります。その後ひき続き催されました大学祭は、新しく図書館、体育館を会場に加え、これらに来場した観客はあらかじめ予定した数を遙かに越える有様で、美事に終了しました。大学祭の期間中に、多数の校友諸君がこられていたようですので、この様子は多分来場されなかつた校友の方々も伝え聞き及びのことと思います。

私のところにもかなりの数の卒業生が、訪ねて下さいましたが、ととのつてゆく母校の姿に目をみはり、喜びの言葉を語っていました。

そのさい、前に校友会報に同封していた「クラブOB名簿」作製についての賛成の意見と学生クラブの振興対策についての意見とがありましたので、学生クラブの振興対策の一環である標記の振興会について、校友諸兄によく知つていたとき、できるだけたくさんの方々に、御賛同を得て会員になつていただきたく存じますので、こゝに紙面をかりることにします。

本年も6月頃、学生クラブ活動の振興のため何らかの援助をしようとする声が、ほうふつとしておきましたので、郡山市在住の校友諸兄のうち、クラブに所属されていた方々、在学生でクラブに所属している人に相談しましたところ、皆さん賛成の意見ありました。

現在クラブ活動は、次第に活発になりつつあります。全日本選手権大会などに出場する学生は、経済的な理由などのため、支障をきたしている状態であります。

さて、わが工学部のクラブ活動がより活発になり、その結果として、学部名が全国に知られるようになることは皆さんの望まれているところでありますので、早速準備委員会を作り、クラブ振興のために一步一步その形をととのえました。

前に校友会報に同封していた「クラブOB名簿」作製の資料の御返事も10月20日から到着しはじめいまも毎日続いて到着しています。しかし、まとめるのがあまり遅くなると会の発足にも影響しますので、11月30日到着の分までのものを整理し、この名簿のなかから、郡山市在住のクラブ出身者（各クラブ1～2名）の方々にお願いして、12月17日工学部第二応接室に集まつたときまで、相談しましたところ、いろいろの状況を考慮するととにかく、会を発足させるべきであるとの結論になりました。そこで集まつていただいた方々に発起人になつていただき、会の名称を「日本大学工学部学生クラブ振興会」と称することとし、会則についても話し合いを行ないました。いづれ会則等御連絡いたす筈でありますので、会へのご参加について、御高配賜わりたいと存じます。

なにぶんにも、このクラブ振興のためには、校友の皆さんの絶大なる御支援を必要とするのは論を待ちません。

この際クラブに所属された校友の方のみでなく、全校友諸兄の御支援を切望してやみません。

（筆者は工学部電気工学科教授、常任学生指導委員）

コンクリート型枠剝離剤「モールド」…… 工作機械油

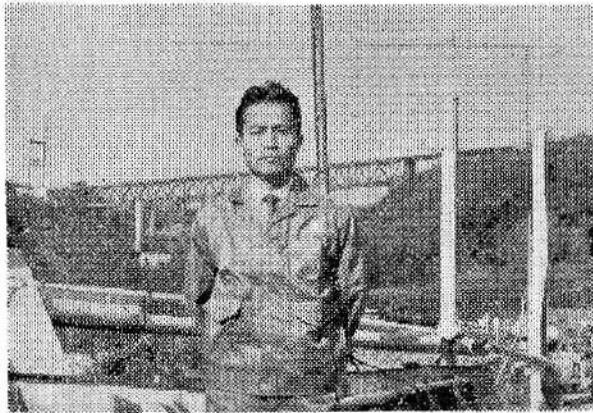
東京事務所 斎藤 宏二 (工化11回卒)

株式会社 宏栄社 化学研究所

東京事務所 東京都渋谷区桜塚1-13 TEL (466) 0723
本社工場 小樽市最上町18 TEL (8) 5423 (8) 4673

高橋脚施工に於ける 一例について

相 沢 千 明



現在建設中の中央自動車国道は、山岳地帯をルートとして居り、その高速道路としての性質上、曲線半径、縦断勾配に於いて制約を受ける。当然高い橋脚を有する橋梁が、大きな比重を占めて来る事となる。

私の目下担当している橋梁は、河岸段丘（約高低差70m）の起終点に於ける長大橋であり、二橋共橋脚高は、50mを前後している。現在一橋（橋長227m）は下部工完工し、上部工（三径間上路式連続構）を架設中であり、他の一橋（橋長480m）は、下部工基礎施工中である。設計途上、本邦に於いては、この様な高橋脚の施工例が、うかがわれず、設計（特に耐震上）施工上大きな問題がありますが、本橋に於いては、耐震的に、橋軸方向をFlexibleとし、沓は鉄骨構造として、鉄骨鉄筋コンクリートで設計、施工性からは、頂部を除き同一のI断面とした。今回設計については省略させていただきます。

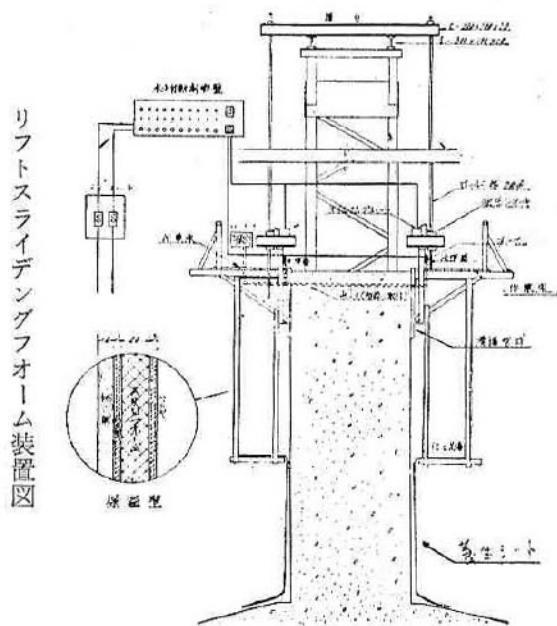
さて、施工にあたり、地形上はU字型であり、橋脚は約45mとなる為、一般的に用いられるCableによるコンクリート打込は不可能であり、作業も又高所となる為、種々の検討の結果、現在建築界に於いては、サイロ等の建設に、よく用いられているところの、ある一定の型ワクを、その儘上り上げて行くSlidingFormによる工法を採用する事とした。これを橋脚の施工に、種々改良し、実施しましたので、高橋脚の施工の一例として、紹介を兼ね、述べて行きたいと思います。

図に示す様に、鉄骨は施工前に組立てられ、その上に構台を設置し（完成後取除く）構台にロッド（S35C 28φ）を吊り上げ、これを油圧ジャッキ（最大7t）に挿入される。油圧ジャッキは14台使用し、これは爪によ

つて上昇のみ可能な構造となつていて。この14台のジャッキを同時に上昇出来る様にし、且つ各ジャッキとも、水平上昇を一律に要求されるので水平自動制御室を設け、ここでワンマンコントロールを行つる様にした。ジャッキより下に作業台を設け、更にこの下には11月末より12月下旬までの作業期間であつた為、コンクリート面の型ワクの早期脱型される関係上、養生室としこれを吊り、それ以下は養生シートを張り、温度の低下を防ぐ、型ワク（1.5m）は橋脚がI断面の為、平面的及側面的な孕みを防止する為、鋼製トラスを組み変形を防止する。

コンクリートの打込は、この橋脚に添つて、コンクリートタワーを建て、一方作業員昇降用登り桟橋を設置した。又コンクリート（セメント300kg/m³スランプ5~10cm）は、一日中の温度の上下、及びスランプによって異なるが、自立強度に対する安全を見、0.5~0.7kg/m²の圧縮強度に於いて、上昇する時間を定める事とし、早期強度の各種試験を行つた結果、上昇速度は20cm/hourを標準として実施した。

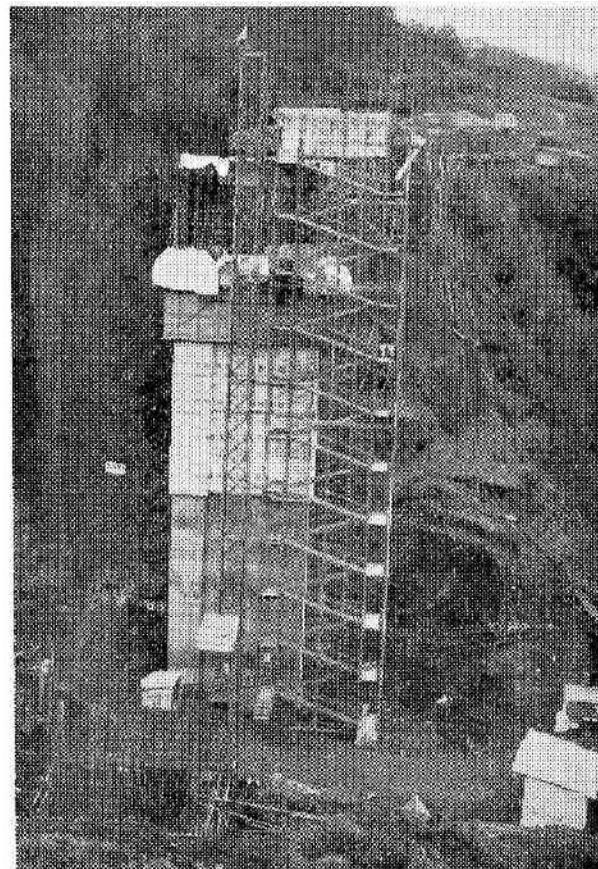
コンクリートの養生は、本工法に於いては、最も注意するところであり、コンクリートの各状態時の温度の測定及コンクリートの内部温度の測定、及び脱型後の表面被膜剤の試験、養生室内及び外気の湿度温度の測定、実際のコアによる各種比較試験、起音波による



強度の間接強度測定等の試験を考慮に入れ、養生を行つた。その結果は設計強度に対しては、一応満足される資料を得た。

橋脚の本工法に於ける施工期間は僅か24日間であり、この中約半数の日数は、鉄筋の圧接及ホツパー、シート等の段取替えに要している。施工は、鉄筋の長さ上、6ロットに別け行い、試験員を含め23人1パーティーとなり、コンクリート打込中は昼夜兼行となる。ほぼ2日コンクリートを打込し2日段取りに要する。本施工に於いては、頂部梁2.5mを残し、約39.5m(軸体長42m)を実施したのであるが、コンクリート量は682m³であり、打込中の一日(24時間)上昇高は約6~7mであつた。

本工法の特徴は、工期が普通の場合の1/2~1/3で施工出来る点にあり、作業の安全性は、構合及ロットの試験を充分に行けば、他の工法より大であり、立上り強差も非常に少ない。(本橋脚の場合10mm程度)。しかし、型ワクの早期脱型による強度の影響に対する処置は、充分な慎重性を要し、経済的には、2基以上の高橋脚施工に於いては、有利となるであろう。私の担当している、目下、下部基礎工施工中の他一橋の3基の橋脚に再び、本工法で11月中旬より実施し、コンクリート工事に於ける建造物の機械化施工という面から、昨年の実施例を参考として、追及して行こうと思つてゐる。一応詳細に、各種のデーターをあげ、御批判を戴きたいのですが、紙面の関係上、拙文にて紹介に止めました。校友諸氏の各界での御活躍を偲びつゝ。



(筆者は土木科第1回卒業、現在、日本道路公团高連道路八王子建設局上野原工事事務所工事長。前頁の写真はSlibing Form工法の橋脚の上部架設が終り、それをバックに撮影したもの—41.11.20.)

会員消息

— 事務局ではこの頁の投書をお待ちしております
写真・スケッチなども歓迎いたします —

◎ 橋本 寿 (12回機械科卒)

(石川島重工K.K.)

西独フンボルト社との技術提携によるフレーヒータ付乾式タリキルンセメントブラント機を製造、以後新機種開発につとめ、ようやく第1号機を新潟市内の北越製紙K.K.に納入することになり、はり切つております。後輩のみなさんの入社がないのは淋しい限りです。是非入社して下さい。

◎ 加倉井建一郎 (13回建築科卒)

(

辰村組)

入社1年目は当社技術部にて施工専門、現在横浜の電気局の工事で図面を担当しているが、現在の日本の中小企業(建設業)のやり方に、少なからず疑問を持ちつつある。機会があれば海外に渡り勉強し向うで頑張つてみたいと思つてゐる。先輩の方で海外に御活躍の方があればその方の住所を紹介していただきたい。

◎ 村上 靖敬 (14回建築科卒)

(

田中建興K.K.埼玉支店)

倉田先生、就職の件につき色々御心配をおかけしました。現在毎日休みなく、汚れ乍らやつております。

御安心下さい。

◎ 山田 博通 (10回建築科卒)

(K.K.熊谷組、広島支店)

39年一級建築士の国家試験にパス、現在大学工学部造船科の新築に熊谷組工事主任として勤務中です。

◎ 関 雄二 (2回土木科卒)

(福田組東京支店)
12月1日に東名道路東京高架橋工事が終り、12月15日より東名道路浜松東工区福田組作業所所長として行く予定です。

◎ 佐藤 弘機 (14回土木科卒)

(秋島建設K.K.)
現在西桂工事事務所に勤務しておりますが、工事が竣工すればまた他の工事事務所に移転することになりますので、その時はまた連絡いたします。

◎ 田中 博司 (14回工業化学科卒)

(K.K.西村商会)
先輩も勤務しており、やる気で勤めております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最近思うこと

「人間の頭」と「機械の頭」

長島 登美夫



最近は茶の間にいても「電子計算機」と言う言葉を耳にする機会も多く、小学生でもその概念について知るところとなりました。小生は目下その電子計算機に依る事務の機械化を計る業務に従事しております。こんな仕事を通じて感じるところを述べてみたいと思います。

一般に機械を購入すると明日からでも業務が機械処理されるかに誤解されがちですが、実は事務の流れが機械に乗る迄には沢山の準備が必要です。御承知の通り計算機の演算速度は今や、マイクロセカントからナノセカント単位に移りつゝあり、気の遠くなりそうな能力を持つに至り「ソロバン」一級の人人が十年間かかる計算を一時間で終ると言われます。

しかし機械の事ですから思考能力がありません。基本的には二進法の加減算しかできないのです。その機械に四則演算から、更に高度の数式計算をさせる為には、それ相応の準備を入手で行い、機械の理解できる言葉に変換して、記憶装置に入れる必要があります。

この「人間の頭」と「機械の頭」との橋渡しをするのがプログラマーであります。プログラマーは機械化対象業務に精通し更に機械の機能についても理解する必要があります。

機械に「手順」計算の「方法」を単に伝達するのではなく、上手に、スマートに与えなければ能力を充分に發揮させる事ができません。換言すると電子計算機の経済的使用がプログラマーに与えられた使命であります。電力業界では公共料金である電気料金の長期安定の為に、事務簡素化に依る経費節減に必死で頑張っています。でも企業がマンモス化するに従い、全社的経済性追求の重要な事は判つても、自分の部門を中心に物事を考えがちになり、なかなか困難な問題も

出て来ます。しかし企業内にあつて最も困るのは、物事の「常識的判断」が出来ないというのか「考え方が変だ」というのか、いずれにしても組織の動きに混乱を与える人の存在であります。世間の人がいう一流中の一流の大学を出た人で、頭の回転も速く、知識が豊富でも、こんな人の事を我々は馬鹿と呼びます。馬鹿にも知能指数の高いものと低いのがあると思いますが、この知能指数の高い馬鹿程に害の大きいものはないと考えます。

小生など頭の回転が鈍い為「プログラマー養成教育」中など家に帰つてからも夜遅く勉強しないと、皆んなに足並を揃えられませんでした。子供の泣く時は物置小屋に、筵を敷いて勉強したりもしたものです。でも小生は、企業に対して、迷惑をかけていないと確信できます。なまじ頭も良く、知識も豊富であつても、どこか判断の基準の狂つている人は、他人にも企業全体にも迷惑をかけます。頭に知識を詰め込む事にだけ専念し過ぎ、大切な情感や適正な判断力養成を忘れて、学生生活を送る事の恐しさを指摘したいのです。

今や郡山学園は、設備も教授陣容も驚く程に充実して、そこで学ぶ学生も優秀になつたと思います。しかし単に学力だけでなく、他人に親しまれ集団の中で協調のとれる人格形成も忘れる事なく、頑張つて頂きたく思います。

小生も、日大郡山学園で育つた一人として、先輩のお荷物になつたり、後輩に迷惑をかける事のない様に、能力の限界線ぎりぎりで働いてゆきます。学園の歴史や伝統を造りあげるには、一人の不心得者の害は大きく、又世間は学園の建物でその価値を判断して呉ません。学園に対して、非常に手きびしい批評をする人もいます。この誤解は弁舌では如何ともし難く、忍耐強い行動あるのみかと存じます。さて最後に我が社の頭脳となる「計算センター」は明年2月に完成します。興味をお持ちの方は、是非立寄つて下さい。待つています。

(筆者は電気8回卒業 現在東北電力K.K企画室総合機械課開発室勤務)

(会員消息——前頁より続く)

◎ 谷口 英二 (10回建築科卒業)

40年10月15日養子縁組により、田口英二から谷口英二になりました。今後ともよろしく願います。

◎ 鈴木 司郎 (10回建築科卒業)
(鈴木建築設計事務所)

上記の設計事務所を設立して、これから自分自身の充実ある仕事をして、卒業生として立派に建築の道にたずさわる覚悟です。

◎ 渡辺健一郎 (10回建築科卒業)

現在千葉駅前の千葉県農業会館新築工事現場にいます。B1～6F、14,000m²、9億5千万円(請金)です。

昭和41年度

校友会臨時総会を開く (41. 10. 23)

校友会会則第13条第2項に「会長が必要と認めるとときは、臨時総会を開催することが出来る」と定められている。このたびの臨時総会は、下記の重要議案の審議と報告のために、会長が必要と認めたわけである。

10月23日午後1時から、郡山商工会館において、校友40名の出席を得て開かれた。先づ柳沼事務局長の開会のことば、次いで根本会長から、重要議案審議に協力方依頼の挨拶が述べられ、議長には第14回電気科卒業の、植木浩君が選出されて議事に入る。学生代表は4人出席、冒頭から学生の議決権をめぐつて、緊迫した雰囲気に包まれたが、結局臨時の措置として、今回だけ議決権を認めることで落着く。

第一号議案…昭和41年度会務の中間報告に関する件。

この件は5月8日の定期総会から今日までの会務の内容で、事務局長から重点的に報告、説明があつて承認。

第二号議案…昭和41年度更正予算に関する件。

宍戸経理部長から説明、歳入の部では、事業基金積立金を経常費に入れること。歳出の部では学部に新設された学生クラブ振興会に対する援助金、20周年記念学部祭の援助金、この二つが中心である。これに対して活発なる質疑応答が繰り返されたが結局、明確になる便途であるようにとの希望意見を尊重して、原案通り可決された。

第三号議案…校友会会則改正に関する件。

半沢、三沢両副会長が中心となり、改正の要点を説明された。何しろ現会則の修正でなく、全面的改正であるから論議が長時間に亘つて話し合われたことは、当然である。臨時総会における最大の山であつたと思う。

改正の要点は、①幹事の名称を除く。②学生からの経常会費を徴収しない。③会計年度を改めて4月から明年3月末までとする。④専門委員会を設置する。以上4点が改正の中心である。提案側としては、合理的な会則に改め、それに基づいて運営し、堅実な歩みをしたいと強調、一方では校友が年々増加するのに、会費が削減されることは事業が出来ないばかりでなく、経常の運営にも困るだろうと力説、両者共に校友会を思う気持ちにおいては変りはない。充分に論議が交わされた結果一部を修正して可決され、昭和42年度から全面的に効力を生ずることになった。

午後1時過ぎから開会された臨時総会は、休憩もなく質疑応答、意見開陳、希望陳述、続くこと正味6時間に及んだ。

思うに、歴史と伝統を持つ日本大学工学部（第二工学部）校友会の歩み辿つた道を振り返り、反省し、検討を加え、今後の校友会をどのように進めたらよい

か、校友各位の念願はそこにあつたと推察される。

昭和41年度更正予算

(更正項目のみ記載)

A 経常賞の部

款項	説明 種目	更正予算	前予算	比較増減
----	-------	------	-----	------

△は増、×は減を表わす

1. 歳 入

雑入	6. 雜 入	333,593	75,000	△ 258,593
----	--------	---------	--------	-----------

2. 歳 出

事業費	21. 学生クラブ振興会援助金	200,000	0	△ 200,000
	22. 負担補助援助金	230,000	50,000	△ 180,000
予備費	27. 予備費	128,612	50,019	△ 78,593
積立金	28. 積立金	1,400,000	1,600,000	× 200,000

B 積立金の部

1. 積立金（終身会費）

昨年度繰越 3,300,000
本年度予算 1,400,000

2. 退職積立金

昨年度繰越 97,137

附 記

学部祭援助金20万（2万は例年通りに予算にくみ入れてある）学生クラブ援助金を捻出する為の更正予算案を作成した。雑入の+258,593円は今迄「事業基金積立金」としていた項目を廃して経常費に入れれる為の収入である。

以上の通り提案いたします。

昭和41年10月23日

日本大学工学部校友会会长 根本年雄

事務局便り

◎ 校友会報の原稿募集について。

校友会報は年2回発行しておりますので、校友各位からの投稿を大歓迎します。どんな内容でも結構ですから折にふれて気軽に、お便りをよせて下さい。

◎ 連絡先、勤務先等の連絡についてお願い。

校友諸兄姉には勤務の関係により、異動があり住所が変わることが度々あることと思います。その場合にはなるべく早くお知らせ願います。

◎ 広告掲載希望の方へ

事業所、事務所等の広告を校友会報に掲載希望の方は、その旨をお知らせ下さい。

日本大学工学部校友会会則

- 第1条 本会は日本大学工学部校友会と称す。
- 第2条 本会は事務所を日本大学工学部校友会館内に置く。
- 第3条 本会は学術研究の推進並びに会員相互の向上親睦を図り、もつて母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は次の事業を行う。
1. 会員名簿の作成
 2. 講演会
 3. 研究会
 4. 会誌の発行
 5. その他本会の目的達成に必要な事業
- 第5条 本会は次の会員をもつて組織する。
1. 正会員……日本大学第二工学部及び日本大学工学部の卒業生。
 2. 準会員……日本大学工学部の在学生。
 3. 賛助会員……教職員及び本会に功労のあつたもので役員会で推薦された者。
- 第6条 本会は会費と寄付金によって運営するものとする。
- 役員
1. 本会に次の役員を置く。

会長	(1名)
副会長	(2名)
理事	(6名)
会計監査	(若干名)
評議員	(若干名)
 2. 役員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。
 3. 役員の選出は下記による。
 - ①会長、副会長、理事、会計監査は総会において正会員中より選出する。
選出方法は総会に一任し、別に定めない。
 - ②評議員は会長が正会員、準会員中よりこれを推薦決定する。
 4. 会長は会務を総理し、副会長は会長を補作し、理事、会計監査、評議員は会務を処理する。
- 第8条 本会に次の機関を置く。
- 総会
役員会
理事会
専門委員会
- 第9条 1. 総会は本会の最高決議機関であつて、すべての会員をもつて構成し、会長が招集する。但し準会員については、総会出席者5名を学生自治委員会に委託し、会長がこれによつて招集する。
2. 総会は年1回とし4月に開き、予算、決算その他重要な事項を議決する。但し開催日は特に定めない。
3. 本会は次の場合に臨時総会を開くことが出来る。
 - ① 正会員より請求のあつた時、但し会員の3分の1以上の連署による。
 - ② 役員会が招集を決議した時。
 - ③ 会長が必要と認めるとき。
4. 総会における議決は総会出席者の過半数により議決する。
- 第10条 役員会
1. 役員会は総会に次ぐ決議機関であつて、会計監査を除く全役員をもつて構成する。
 2. 役員会の決議は出席者の過半数により議決する。但し委任状も含む。
 3. 役員会は次の場合に会長が招集することができる。
 - ① 会長が必要と認めたとき。
 - ② 役員の3分の1以上より招集の請求があつたとき。
- 第11条 理事会
1. 理事会は会長、副会長、理事をもつて構成し、会長がこれを招集する。
 2. 理事会は本会目的にそつた運営計画を立案検討する。
 3. 理事会の決議は出席者の過半数により議決する。但し委任状は認めない。
- 第12条 本会は前条にかかる機関の他、会長が必要と認めた時、専門委員会を設けることができる。
- 第13条 本会は事務遂行の為に、事務局を置きその下に諸部を置く。
1. 総務部
事業部
経理部
 2. 事務局には、専従職員を置くことが出来る。専従職員の規定は別に定める。
 3. 各局部の運営は、理事の互選により選ばれた局部長がこれに当る。
- 第14条 本会の会員は入会の際、次の会費を納入しなければならない。
- | | |
|------|--------|
| 入会金 | 2,000円 |
| 終身会費 | 2,000円 |
- 第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月末日に終る。
- 第16条 本会は本会則の他、次の規定を持つ。
1. 旅費規定
 2. 役員規定
 3. 事務局員規定
- 第17条 本会の会則の変更は、総会出席者の過半数により議決する。
- 第18条 この会則は昭和41年10月23日より効力を発する。但し会費の変更は昭和42年4月より実施する。
- 改正 昭和41年5月8日
改正 昭和41年10月23日

◎郡山学園開設20周年記念式典が開かる

郡山に専門部工科が開設されたのが昭和22年4月であり、今年はその20周年目にあたり、その記念式典は10月25日に行なわれた。

日本大学会頭の古田重二良先生、総長の永田菊四郎先生をはじめとする大学本部の役職員、福島県元知事の大竹作摩氏、石原幹市郎氏をはじめとする功労者、それに工学部や東北工業高校の教職員、学生、生徒が約5000人が出席し、式は新装の大講堂で行なわれ、参会者の万歳は会場を圧した。なお、工学部校友会からは、根本会長、関根前会長、渡辺前会長が出席した。

◎記念学部祭が開かる

学園開設20周年を記念する学部祭は10月28日から11月3日まで、学園内と郡山市内で盛大に行なわれた。

これは工学部が主催、工学部校友会と郡山市が後援で、行なわれたものであり、特に今年は学園内に、大講堂、食堂、図書館、講演会場などが新設されたおりでもあり、これらの施設を最大限に利用して、連日、見学者や学生でにぎわつた。特に、日本大学の体操選手（遠藤幸夫選手や渋谷多喜選手）による模範演技には、近くの小中、高校生が多数、見学にこられ、一そくのにぎやかさを添えた。

◎第10回学内学術研究報告会が開かる

表記の報告会は毎年1回、工学部の主催、校友会の後援で行なわれるもので、今年度は12月10日に行なわれた。

年毎に発表参加者は増し、今年の件数は次のようなものであつた。

一般教育科（人文科学関係）	15件
一般教育科（自然科学関係）	13件
土木工学科	12件
建築学科	19件
機械工学科	17件
電気工学科	16件
工業化学科	8件

であつた。

また、今年は特に「工学部」に勤務しているのではない校友の参加がみられ、年毎の充実が期待されてい

る。今年は次の校友の参加があつた。

- 黄 鶴周（土木3回、韓国延世大学校土木教室）
浪越 勇（土木5回、東北大学工業教員養成所）
青山清道（土木13回、日本大学大学院）
遠藤茂勝（土木14回、日本大学大学院）
上崎省吾（電気9回、東北大学通信工学科）
統 銀（電気12回、東北大学大学院）

◎工科校友会加入調査専門委員会誕生

工科校友会の要請により、12月12日本部に於て、郡山の校友会の本部加入の是非についての懇談会が開催されました。その席上工科系の大同団結を図り、日本大学と校友会の発展のためには、加入すべきではないかとの要望がありました。本校友会としても多年この加入については検討されて参りました。最近一部在京の校友からの加入すべきではないかとの要望が強まりましたので、本校友会としては、加入すべきか、どうかについて調査検討すべきであるとの結論を得ましたので、調査専門委員会を設け、現在の事業を維持継続できるような内容で交渉することになりました。

◎下宿問題について

昨年度迄校友会の事業の一端として下宿斡旋をして来ました事は校友諸氏もご承知の事と思います。

41年12月17日、学生自治委員会の強い要望により大学（外木、高木両先生）、校友会（会長他5名）、学生（厚生部長他4名）の出席で協議した結果、三者で日本大学下宿対策委員会と改め事業に乗出す事になった。

昭和42年1月20日迄に下宿登録簿を作り3月新入生にそなえて準備中であり昨年度より良い結果が出る事と思います。

お 知 ら せ

昭和42年度校友会総会を下記により開催致しますので校友諸兄は御出席下さい。

日 時 昭和42年4月23日（日）

午後1.00時より

場 所 郡山商工会館（2階）

工学部特集

新たなる躍進期を迎えて全校校友に訴える！

日本大学工学部 広報委員会

全校友の皆さん／「日に日に新たに」という校歌にもあるように、母校日本大学工学部の誇りと名誉をになつて、前進につぐ前進の毎日を送られていることと思います。さて、この度、母校であるこの郡山学園も開設以来20年を経て、漸く、成人として、新しい躍進の時期をむかえています。この新たなる時期に於て、学校の研究施設、教育施設、厚生施設等諸施設の一層の充実に努力することはいうまでもありませんが、それ以上に、内容面での充実に於て、飛躍的発展が、何よりも希望されています。

さて、私達広報委員会は、ここ数年来学力、人格共に優秀な学生の多数獲得をめざして活動してきました。例えば夏期休暇中、全国主要高校をめぐつて、工学部の現実を各地の高校の進学指導の先生方、又それらの方々を通して、進学生諸君に知つていただくため、多数の先生方の御骨折と御協力をいただいております。其他、様々なマス・コミ関係の手段を通じて、工学部の、独自性と、優秀性を、世間に周知させて参りました。しかしそういつた努力は、いくらなされても、なされすぎるということは、ないと思います。

本年、広報委員会は、従来の経験を総括的に検討、反省し、新鮮にして、強力なる広報活動を展開しております。さきに、皆様におわたしした「建設20年」のパンフレット等もその一環としての活動であつたわけです。

さて重ねて、強調したいと思いますが、大学の真価が世に問われるのは、その外装ではなく、その内容であることはいうをまちません。ここに於て、優秀なる教授陣容に優秀なる学生の存在が、母校の将来を決する二重大要素であります。現在、教授陣容は、日本大学の他学部に優るとも劣らぬ整備をみつつあります。このときに当たり、日本全国から、優秀なる学生諸君の、参集することを私達は切望しております。

そういう観点に立つて、一人でも多くの受験生を、この郡山の工学部

に集めることが、当面の私達の課題であり、偽らざる要望であります。

後輩1人紹介運動をおこう！

上のべましたような、この重大なる時期におきまして、私達広報委員会は、全力をあげて、受験生の獲得運動に立ちむかっております。全教職員の援助と協力のもとにこの年末には、日本全国の高校にいるその友人の方々に、学校の写真入りの絵はがきを、多数送るなどというのも、そのひとつのあらわれです。その他、地元高校に強力によりかけるなど、様々な創意と工夫のもとに、活動が展開されていますが、さらに、皆様の御力も借りたいと思います。そこで提案したいと思います。

校友1人、必ず1人の後輩を紹介しよう

どうか、あなたの弟さん妹さんでも、又、知合いの方でも結構です。工学部の優秀性をお話しになり、優れた進学希望者がそろつて、工学部を是非受験されるよう説得して下さい。そのために必要な書類は、貴君または受験生の住所を、広報委員会宛に御連絡下されば、早速お送りいたします。



生動する工学部の今日明日

先に、校友諸兄姉にお渡しした、「郡山学園建設20年」「わが学園を語る」等において、日本大学工学部の目ざましい躍進ぶりは既に御承知のことと思いますが、本特集においては、日々生き生きと躍動し、発展しゆく工学部の、今日の姿、明日へのびゆく姿をお伝えしたいと思います。

どうか諸兄姉においても、この逞しい母校の姿に、絶大な拍手と、多大の援助を惜しまれないことを、おねがいするとともに、誇りをもつてこの母校を、来るべき後輩に紹介してくださるための資料として、いただきたいと思います。

りっぱな工学部を約束

古田重二良会頭談



私の使命は日本大学を世界的な総合大学にすることだ。現在でも規模は日本一であり、さらにいま実施中の5ヶ年計画が達成されれば、私の目的がはたせる。すなわち5ヶ年計画の中には、①大学施設、設備の充実拡大、②教授の陣容強化と中堅教授若手助教授の養成、③近代的かつ合理的なる方法、④研究面の拡大強化、⑤教授、職員の待遇改善、⑥国際大学館の建設、などがおり込まれている。

郡山市に移した工学部はことで20周年を迎える。多くの障害を乗り越えて20周年を迎えることができ、

感無量だ。将来は多くの特色をもつた工学部にしたい。現在考えていることは、設備の充実、専任教授の増員、図書館の充実、また特色をだすために航空教育をする。そのため、飛行機研究室の充実、滑走路建設を急ぎたい。そして学生が県内はもとより、全国各地から入学するような、りっぱな「工学部」にすることを約束する。（「民友新聞」10月25日号転載）

壮麗にして華かかる成人式

10月25日、待望の「郡山学園開設20周年記念式典」が、新設の工学部大講堂にて挙行された。県知事以下来賓300名、古田会頭、永田総長以下本部各学部関係者を迎え、本学部の発展を祝福する教職員学生数千名の万歳の声は、巨大な会場を圧した。時あたかも上空にはグライダー部の滑翔あり、秋の日に映えるわが学園の構内を散策する来賓その他は、驚異的な充実ぶりに目をみはつていた。



(20周年記念式典)

人間工学の講座を開設

わが工学部の特徴を發揮するための方策の一環として、横地学部長は、人間工学の講座を新設された。

人間工学は、たとえば先般の全日空機の事故が、機械と人間の関係の科学的な究明の欠陥からおこつたもの

とも考えられることなどにかんがみ、今後の工学の新しい分野として、期待されるものである。すでに講義は近藤武教授によつて実施されているが、正式には明年度から開設されることになつてゐる。

教養講座本年度から 実施さる

ややもすれば、文化の中心から離れたという、疎外感を取りのぞき、また実質的に学生の人間的成长を助成するため、懸案であつた教養講座が今春から実施された。すでに「極低温と超伝導」(安河内昂理工学部教授)「最近の内外情勢と今後の日本のあり方」(大宅壮一氏)「国際的立場からみた日本」(三浦朱門氏)「航空機の話」(木村秀政教授)「日本の方言」(グローツク神父)「ある科学者の生涯」(山口弥一郎氏)「ルネサンスにおける科学と文学」(村岡勇東北大教授)が行なわれた。

教養講座アンケートより

建築1年 K.S.生

大宅壮一先生の「最近の内外情勢と今後の日本のあり方」という講演を聞いて、なるほどと考えさせられる面もあつて、非常に為になつた。

僕は政治といふものの専門家ではないので、政治をそれほど深くは知らないが、自分なりの考えをより深くまとめてみると、よい刺激を与えられたように思う。

僕たちは、とかく狭い考え方と視野におちいりがちであるが、それをぐんとひろげてくれるよい機会であつた。

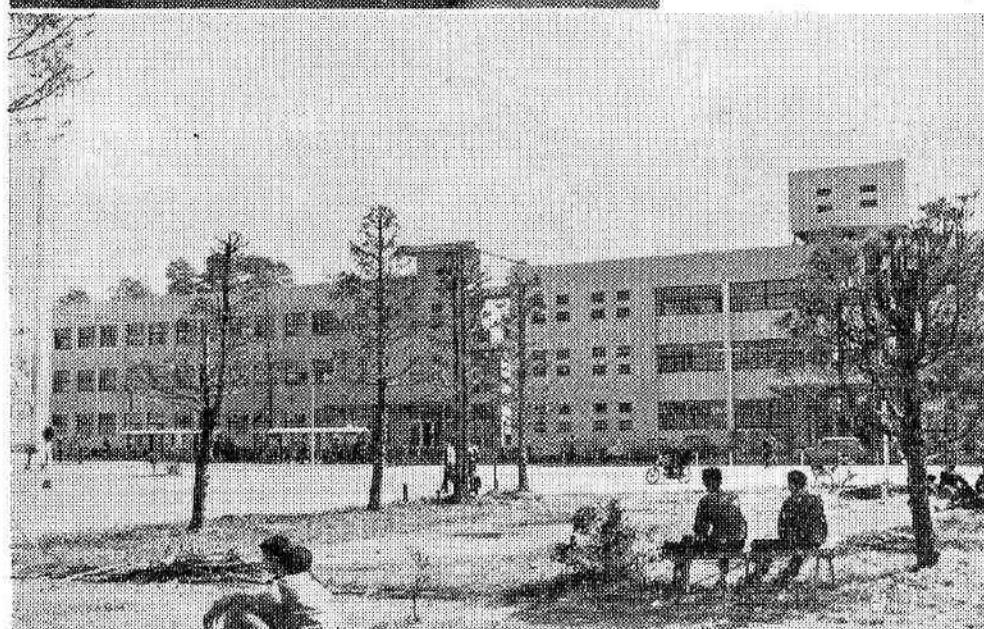
皆も、熱心に聞き入つていた。今後も、どしどしこういうすばらしい講演会を計画していただきたいと思います。

× × ×

(写真説明)(左上)

教養講座

(講師 大宅壮一氏)

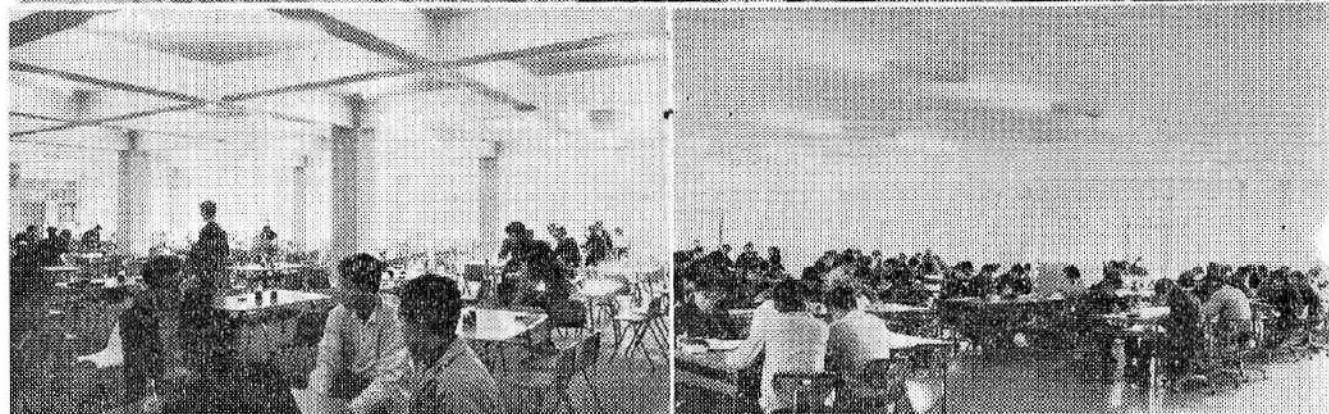
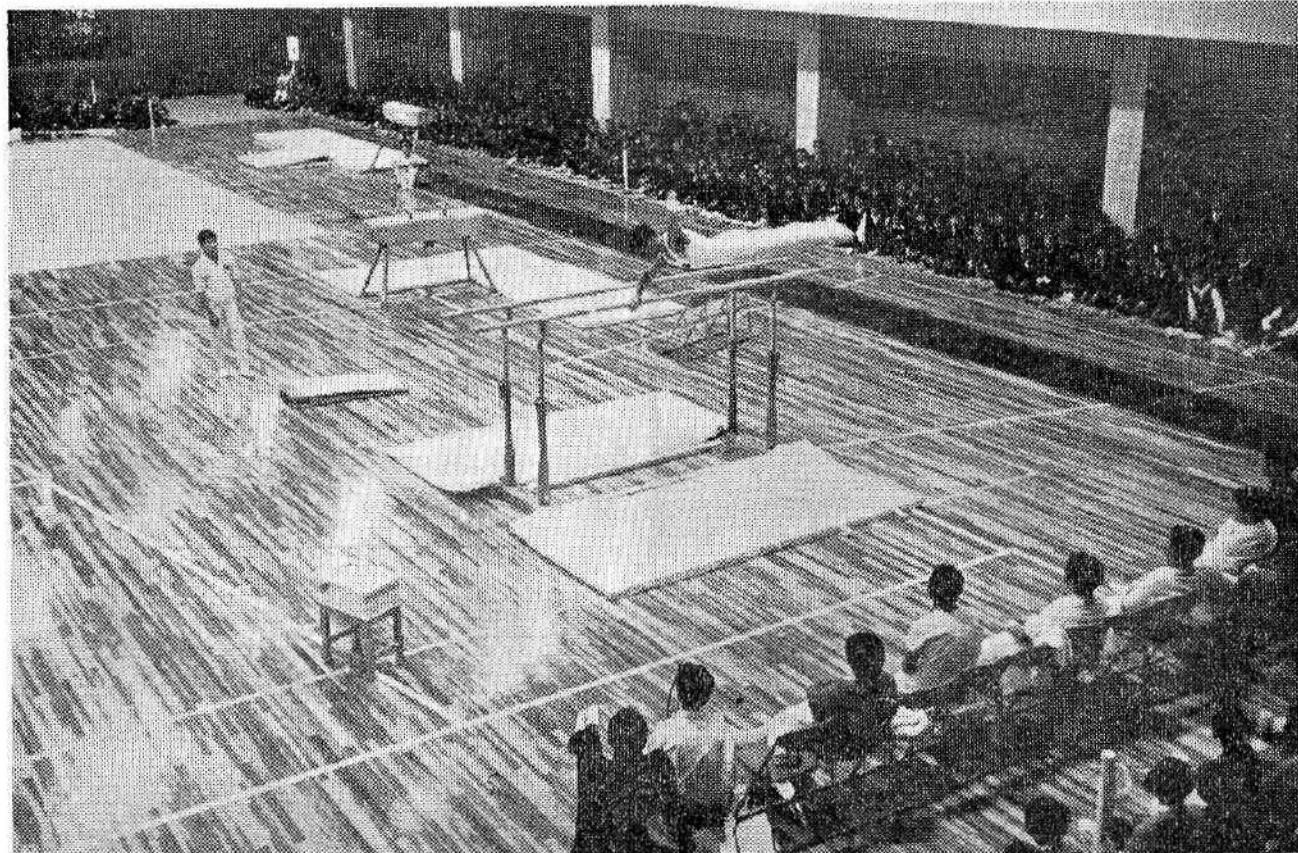


充実しゆく学園生活

諸設備の充実と共に、これを利用した諸活動が活発におこなわれつつある。学生相談室が、極めてさかんに利用されていることや、11月2日には日大体育科遠藤選手以下の体操の妙技が披露されたなどは、その一つである。りっぱな学生食堂でのひととき、あるいは

図書館での快適な読書、あるいはまた木造1号館を改造した部室での会議など、若いエネルギーが、全学園にあふれるこの頃である。

中央実験室(3000坪)が、来年完工するのを期として、勉強に、クラブ活動に申し分ない学園生活は約束されている。あとはよき魂が母校興隆のために、結集することのみがのぞまれることだ。



(上) 遠藤選手の体操演技

(左) 学 生 食 堂

(右) 図 書 閲 覧 室

おねがい！

はじめにのべましたように、われわれは優れた受験生護得の大キヤンペーンをおこなっています。校友諸

兄姉も、何卒御協力お願いします。そのため案内パンフレットや、入試願書などの書類を必要とされる方は広報委員会に申しこまれた方に限り無料でお送りします。

- ◆ 東京出張試験(2月23日) 郡山試験(3月9日) 両方受験可
- ◆ 英語B・数学I・II B・物理Bまたは化学B (志願書等は各試験場入試係へ)